

れたのである。今、印度 Hindoustan とイラン Iran とを分つ山地を一瞥すれば、此の地方自然の特質で、目下の問題が殊に單純になる事を示すのである。事實、美術は嘗て山の花でないことは、既知の法則であり、従つて、ギリシア風佛教派は、地圖に記されてゐる二沖積平野の何れかで生れ、其花を開いた事は確かであるとする事が出来る。即ち、ヒンヅクーシュ Hindou-Koush の北か南か、換言すれば、オクサス河の流域か、インダス河の流域かであり、一層精密にいへば、バルカーブ Balkhāb 河の下流か、カーブールロウド Kaboul-rōud 河畔かである。更に之等兩河地方に古代名を求むるには、安息國(バクトリア)と犍陀羅國とを先づ決めてかゝらねばならぬ。抑も、犍陀羅、即ち、ペシヤワール地方は、十九世紀中葉以來、殊に五河地方が英領印度に併合せられてから、印度ギリシア風佛像發見の主要地であつたので、單に之だけでも、兩國の問題が解決されたものともいへるが、半ば以上ギリシア風であるとして知られてゐる流派の發生地を求める場合には、富もあり人口も多かつたバクトリアには、中亞を通じて最も重要なギリシア移民が長い間居た事を忘れて